

2024年7月10日（水）

老球の細道811号

福島県総合スポーツ大会兼福島県選手権大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 冨仁

高校、大学、一般チームを交えて福島県最強チームを決する県大会が7月5日（金）から8日（月）まで会津若松市で開催された。県内の高校、一般クラブチームは最近東北、全国大会等で優勝、入賞等のハイレベルな成績をおさめている。

今大会も全国インターハイを控える福島商業高校や福島東陵高校男女が一般クラブチームを相手にどこまで戦えるかが注目の的になった。特に男子は福島東陵高校が「外国人オンザコート2名」の大会ルールを有利に利用できるか楽しみであった。

結果は男女共に一般クラブチーム（男：福島 SiriusBlacks、女：遊籠倶楽部）が4連覇を果たした。高校チームは長身の外国人留学生を擁しながらもインサイドを上手に攻撃できずアウトサイドの1：1を強いられタフシュートが多くなった。一般チームはディフェンスのプレッシャーを緩めず、よく走り、ここぞというときにアウトサイドシュートも決め、キャリアの差を見せつけてくれた。

今大会は男子100回、女子91回の全日本総合選手権大会の県予選会になる。優勝チームはこれから各県の優勝チームと戦う東日本大会のファーストラウンドに参加する。そこで勝ち上がると次はBリーグチームと戦うセカンドラウンドに進出し、最後はファイナルラウンドで優勝チームが決定する長い戦いが続く。

本県のアマチュアチームがセカンドラウンドまで勝ち上がるには相当困難な壁が立ちほだかる。しかしあきらめてはいけない。歴史を顧みると過去に福島県代表チームは女子の部で優勝2回、準優勝2回という実績がある。

- * 1947年（昭和23年）第13回 橘クラブ（旧福島女子高校 OG クラブ）優勝
- * 1948年（昭和24年）第15回 橘クラブ（ ）優勝
- * 1956年（昭和31年）第22回 北芝電機 準優勝
- * 1957年（昭和32年）第23回 北芝電機 準優勝

『バスケットボールの歩み 日本バスケットボール協会50年史』より

驚くべきことに、この4回の優勝、準優勝を達成したのは同じコーチであった。福島高校OBの斎藤芳正氏（故人）である。福島県バスケットボール協会の設立に尽力し、指導者の養成やチームの強化に人生の全てをかけた人だった。私は高校1年生の頃に会津地区高校強化講習会で斎藤氏の指導を受けたことがある。2日間旧若松女子高校の旧体育館で行われたが、あまりにも厳しくて初日でリタイアする学校が続出したことを今でも覚えている。

大会を観戦しながら、私自身がプレイしていた頃を思い出した。50年以上前である。未だにバスケットに関わり人生を楽しませてもらっている。決勝戦の興奮を胸に秘め、その日の夜、孫のミニバスケット練習を見学した。孫娘が5：5のゲームで初めてシュートを決めた。思わずガッツポーズをとってしまった。選手の成長は「ある日突然」である。